2025年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：3年 AI 活用アドバンスト

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それを用いて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会で用いられている実践的なAI活用に関わる知識を獲得することができる ② 社会課題解決のために、プロンプトエンジニアリングを用いたAIを作成することができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AIを活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる ② AIを活用した社会課題の解決案について、社会課題の背景に基づいた仮説を設定することができる ③ ②で設定した仮説について、AIを用いて検証することができる ④ AIを活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AIを活用した社会課題の解決案について、他者に分かりやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えようとしている ② AIや新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めようとしている ③ 社会課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求しようとしている 	

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・生成 AI について理解し、自分の技術力に見合った製品開発に必要な手段を考査、模索する ・対話型 AI を用いた製品について知る																		
時間 授業内容	45	武内先生による講義「生成 AI アプリ概論：自分の力での実現可能性」																	
	45	対話型 AI を用いた製品を 1 つ調べて、共有ノートに共有する																	
評価方法	1) 学びの記録 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">観点1 プロンプトエンジニアリングについての予備知識</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>自主的に知識をたくさん得ようとしている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>自主的に知識を得ようとしている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>自主的に知識をあまり得ようとしていない</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 考察</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>表層的な感想や意見にとどまっている</td> </tr> </table> 2) 製品調べの観点： 観点①「課題・ソリューション・効果」を明確に示す 観点②カードの見やすさ			観点1 プロンプトエンジニアリングについての予備知識		A	自主的に知識をたくさん得ようとしている	B	自主的に知識を得ようとしている	C	自主的に知識をあまり得ようとしていない	観点2 考察		A	得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている
観点1 プロンプトエンジニアリングについての予備知識																			
A	自主的に知識をたくさん得ようとしている																		
B	自主的に知識を得ようとしている																		
C	自主的に知識をあまり得ようとしていない																		
観点2 考察																			
A	得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																		
B	得た知識(対話型AI製品)と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																		
C	表層的な感想や意見にとどまっている																		
宿題指示	学びの記録																		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・プロンプトエンジニアリングについて知る ・プロンプトエンジニアリングを用いた製品について思考することができる																		
時間 授業内容	45	武内先生による講義「プロンプトエンジニアリングの基礎と応用」																	
	45	プロンプトエンジニアリングを用いた AI 製品を考える →次回の授業で 1 分間発表																	
評価方法	1) 学びの記録 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">観点1 プロンプト作成の知識</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>プロンプトエンジニアリング手法について、正確に整理されて記述されている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>プロンプトエンジニアリング手法について、ある程度整理されて記述されている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>プロンプトエンジニアリング手法について、あまり記述されていない</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 考察</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を深く考察することができる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品をある程度考察することができる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を考察できていない</td> </tr> </table> 2) 発表の観点： 観点①「課題・ソリューション・効果」を明確に示す			観点1 プロンプト作成の知識		A	プロンプトエンジニアリング手法について、正確に整理されて記述されている	B	プロンプトエンジニアリング手法について、ある程度整理されて記述されている	C	プロンプトエンジニアリング手法について、あまり記述されていない	観点2 考察		A	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を深く考察することができる	B	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品をある程度考察することができる	C	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を考察できていない
観点1 プロンプト作成の知識																			
A	プロンプトエンジニアリング手法について、正確に整理されて記述されている																		
B	プロンプトエンジニアリング手法について、ある程度整理されて記述されている																		
C	プロンプトエンジニアリング手法について、あまり記述されていない																		
観点2 考察																			
A	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を深く考察することができる																		
B	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品をある程度考察することができる																		
C	講義で得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりに基づいて、AI製品を考察できていない																		

	観点② 発表内容のインパクト 観点③ その他：タイトル/クラス番号名前/色使いやフォント/参考文献
宿題指示	発表の準備

授業日	4/30(水)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】②④【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・自分が考えたプロンプトエンジニアリングを用いた AI について、3 つの発表の観点に基づいて発表することが出来る																										
時間 授業内容	90	1 人 1 分で発表 観点① 「課題・ソリューション・効果」を明確に示す 観点② 発表内容のインパクト 観点③ その他：タイトル/クラス番号名前/色使いやフォント/参考文献																									
評価方法	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">観点1 プロンプトエンジニアリングを用いたAI製品に関わる「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうだという「可能性」というインパクト</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>発表内容について、インパクトがあまりない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点3 整った体裁・参考文献 ①タイトル ②クラス番号名前 ③色使いやフォントの配慮 ④参考文献</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>4つが全てスライド上にある</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2~3つがスライド上にある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1つがスライド上にある</td> </tr> </table>			観点1 プロンプトエンジニアリングを用いたAI製品に関わる「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ		A	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である	B	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	C	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうだという「可能性」というインパクト		A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている	B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある	C	発表内容について、インパクトがあまりない	観点3 整った体裁・参考文献 ①タイトル ②クラス番号名前 ③色使いやフォントの配慮 ④参考文献		A	4つが全てスライド上にある	B	2~3つがスライド上にある	C	1つがスライド上にある
観点1 プロンプトエンジニアリングを用いたAI製品に関わる「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ																											
A	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である																										
B	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である																										
C	社会の「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																										
観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうだという「可能性」というインパクト																											
A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている																										
B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある																										
C	発表内容について、インパクトがあまりない																										
観点3 整った体裁・参考文献 ①タイトル ②クラス番号名前 ③色使いやフォントの配慮 ④参考文献																											
A	4つが全てスライド上にある																										
B	2~3つがスライド上にある																										
C	1つがスライド上にある																										
宿題指示	次回 5/13(火)に授業に持ってくる (iPad 上、現物、データ、なんでもよし) a) 図書 1 冊 b) 新聞雑誌等の記事 1 冊 c) 論文 1 本 d) ウェブサイト 1 つ																										

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②④【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る		
時間 授業内容	20	グループ分け (同じようなテーマ、面白いと思ったアイデア、昨年度のアイデアを継続、1 人でも OK)	
	70	課題設定ワークシート作成・レファレンス探し ・情報カードの書き方、情報カード、課題設定ワークシート配布・説明	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②③④【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る ・自分の考えたアイデアを実現する AI を作ることができる		
時間	45	Dify についての講義・ワーク No. 1	
授業内容	45	課題設定ワークシート作成・レファレンス探し	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②③④【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る ・自分の考えたアイデアを実現する AI を作ることができる		
時間	45	Dify についての講義・ワーク No. 2	
授業内容	45	課題設定ワークシート作成・レファレンス探し	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②③④【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る ・自分の考えたアイデアを実現する AI を作ることができる		
時間	90	課題設定ワークシート作成・レファレンス探し・AI 作成	
授業内容		(図書館、PC 教室使用許可)	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②③④【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る ・自分の考えたアイデアを実現する AI を作ることができる		
時間	90	課題設定ワークシート作成・レファレンス探し・AI 作成	

授業内容	(図書館、PC 教室使用許可)
評価方法	なし
宿題指示	なし

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回																																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②③④【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・グループで課題を設定することが出来る ・自分の考えたアイデアを実現する AI を作成することができる ・自分たちの仮説を発表することが出来る																																		
時間 授業内容	90	7 分間発表・2 分間質疑: 9 グループ 1)内容 ①仮説 (ストーリー) の説明 A)社会課題の説明 「○○な社会課題について…」 B)用いる AI の説明 「△△の AI を用いることで…」 C)結果・効果・予測の説明 「□□の結果・効果が得られるのではないだろうか」 注意：特に A) B)において、必ず参考文献を明記・口頭で触れるすること =どのような研究・知見を背景にした仮説なのかの説明 ②作成している AI のデモンストレーション 2)評価基準 <KG アイデアコンテストの審査基準に則る> ① 基礎理解 研究・知見を背景にした説明がなされているか ② 独創性 先例・類似例との比較がなされているか ③ 実現可能性 AI のデモで実現可能性を表現できているか ④ 共感性 社会からどれほど広く理解・賛同を得られるか																																	
評価方法	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">観点1 基礎理解:研究・知見を背景にした説明がなされているか</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)が十分に明記・説明されている</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)がある程度明記・説明されている</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)があまり明記・説明されていない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点2 独創性:先例・類似例との比較がなされているか</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとしっかりと比較・検討している</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとある程度比較・検討している</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアと比較・検討していない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点3 実現可能性:AIのデモで実現可能性を表現できているか</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>AIのデモを提示し、実現可能性をしっかりと表現している</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>AIのデモを提示し、実現可能性をある程度表現している</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>AIのデモを提示できず(もしくは提示したものの)、実現可能性があまり表現されていない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点4 共感性:社会からどれほど広く理解・賛同を得られるか</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明が論理的で一貫性があるため、そのアイデアを深く理解、共感できた</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明がある程度論理的で一貫性があるため、そのアイデアを理解、共感できた</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明があまり論理的でなく一貫性がないため、そのアイデアについてあまり理解ができなかった</td> </tr> </table>			観点1 基礎理解:研究・知見を背景にした説明がなされているか		A 5点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)が十分に明記・説明されている	B 3点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)がある程度明記・説明されている	C 1点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)があまり明記・説明されていない	観点2 独創性:先例・類似例との比較がなされているか		A 5点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとしっかりと比較・検討している	B 3点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとある程度比較・検討している	C 1点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアと比較・検討していない	観点3 実現可能性:AIのデモで実現可能性を表現できているか		A 5点	AIのデモを提示し、実現可能性をしっかりと表現している	B 3点	AIのデモを提示し、実現可能性をある程度表現している	C 1点	AIのデモを提示できず(もしくは提示したものの)、実現可能性があまり表現されていない	観点4 共感性:社会からどれほど広く理解・賛同を得られるか		A 5点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明が論理的で一貫性があるため、そのアイデアを深く理解、共感できた	B 3点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明がある程度論理的で一貫性があるため、そのアイデアを理解、共感できた	C 1点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明があまり論理的でなく一貫性がないため、そのアイデアについてあまり理解ができなかった
観点1 基礎理解:研究・知見を背景にした説明がなされているか																																			
A 5点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)が十分に明記・説明されている																																		
B 3点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)がある程度明記・説明されている																																		
C 1点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見(参考文献)があまり明記・説明されていない																																		
観点2 独創性:先例・類似例との比較がなされているか																																			
A 5点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとしっかりと比較・検討している																																		
B 3点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとある程度比較・検討している																																		
C 1点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアと比較・検討していない																																		
観点3 実現可能性:AIのデモで実現可能性を表現できているか																																			
A 5点	AIのデモを提示し、実現可能性をしっかりと表現している																																		
B 3点	AIのデモを提示し、実現可能性をある程度表現している																																		
C 1点	AIのデモを提示できず(もしくは提示したものの)、実現可能性があまり表現されていない																																		
観点4 共感性:社会からどれほど広く理解・賛同を得られるか																																			
A 5点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明が論理的で一貫性があるため、そのアイデアを深く理解、共感できた																																		
B 3点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明がある程度論理的で一貫性があるため、そのアイデアを理解、共感できた																																		
C 1点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明があまり論理的でなく一貫性がないため、そのアイデアについてあまり理解ができなかった																																		
宿題指示	9/5(金) までに、「関西学院 SDGs ユースアイデア 2025」に各グループが応募																																		

観点1 基礎理解: 研究・知見を背景にした説明がなされているか	
A 5点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見（参考文献）が十分に明記・説明されている
B 3点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見（参考文献）がある程度明記・説明されている
C 1点	特に社会課題、用いるAIについて、研究・知見（参考文献）があまり明記・説明されていない
観点2 独創性: 先例・類似例との比較がなされているか	
A 5点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとしっかりと比較・検討している
B 3点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアとある程度比較・検討している
C 1点	自分達のアイデアやAIを、他者・他社の既存のアイデアと比較・検討していない
観点3 実現可能性: AIのデモで実現可能性を表現できているか	
A 5点	AIのデモを提示し、実現可能性をしっかりと表現している
B 3点	AIのデモを提示し、実現可能性をある程度表現している
C 1点	AIのデモを提示できず（もしくは提示したものの）、実現可能性があまり表現されていない
観点4 共感性: 社会からどれほど広く理解・賛同を得られるか	
A 5点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明が論理的で一貫性があるため、そのアイデアを深く理解、共感できた
B 3点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明がある程度論理的で一貫性があるため、そのアイデアを理解、共感できた
C 1点	A)社会課題の説明 B)用いるAIの説明 C)結果・効果・予測の説明があまり論理的でなく一貫性がないため、そのアイデアについてあまり理解ができなかった